

教育目標

1 本校の教育目標

校風と伝統を継承し、校訓「最後までやり抜く」を基盤に、知・徳・体の調和のとれた活力ある児童の育成を目指す。

- － 考える子 － 個性を生かし、自ら学ぶ子
- － やさしい子 － 思いやりの心を持ち、互いに磨き合う子
- － 強い子 － 命を尊び、心と体を鍛える子

2 経営方針

学校は、授業や行事等の教育活動を通して、子供の生きる力を育むところであるという理念の下、教育活動の工夫、教育環境の充実を図り、一人一人の自己確立及び人間形成を促す。

3 教育活動の重点

<自ら学ぶ力を育むために>

(1) 基礎学力の定着を図る

- ① 1時間の中に子供たちが「できた」「分かった」と感じられる授業を実現する。
- ② どの子も興味をもてる授業内容と参加できる指導方法を工夫する。
- ③ 友達の意見をしっかりと「聞く」ことに重点を置いた授業規律を身に付けさせる。
- ④ 「考える」「書く」「聞く」「話す」「話し合う」「発表する」などの基本的な学習技能の向上をめざす。

(2) チーム学習を取り入れる

- ① 全ての子供が安心して授業に取り組むために、分からない子が「教えて」と言い、聞かれた子が「いいよ」という友達関係をチームの中で構築し、学習を進める。

(3) ICT（タブレットPC、デジタル教科書、電子黒板等）を活用する

- ① 追究活動での情報収集力やプレゼンテーション等での表現力等の育成。
- ② 交流活動や協働学習における情報共有の効率化を図る。

(4) 学びを意識化する

- ① 子供が自身の成長を自覚するために「学習課題」の到達度を振り返る。
 - ※ 「できるようになった」 → 「もっと調べたい。確かめたい」
 - 「できなかった」 → 「こうすれば次はできる」
 - 「わかる（できる）とおもしろいから、もっとやってみたい」
- ② 教師が子供の学びを価値づける。
 - ※ 「わかるようになって（できるようになって）えらいね」
 - 「この学び方（調べ方、確かめ方等）はとてもいいね」

(5) 主体的な学習に向けて

- ① 社会科、生活科、総合的な学習等々において、豊富な地域教材を活用する。
- ② 出前授業、校外学習等を積極的に取り入れる。
- ③ 子供が自ら取り組みたくなる体験的な学びを単元に組み込む。

<自他を尊ぶ心を育むために>

(1) 他者意識の涵養

- ① 他者の意見に耳を傾け、多様な見方・考え方を認め合う価値を感じさせる。
 - ※ 「友達の意見を聞くと自分の考えが深まる」
- ② 子供の聞く姿勢を育てるためには、まず、教師が子供の声に耳を傾ける姿を示す。
- ③ 自分の思いや考えを伝え、相互理解を深めようとする態度を育てる。
 - ※ 「私の考えを聞いてほしい」「友達は何と言ってくれるかな」

- ④考えの価値を認め、問いかける面白さを感じさせる。
- ⑤目的を同じくする仲間が存在意義を認識させる。
 - ※「一人じゃできなくても、友達と協力すればできる」
 - 「仲間と一緒にやると楽しい」「友達が頑張っているから自分も頑張る」
- ⑥互いに尊重し合うことの大切さを意識させ、規範意識を高める。(学校生活)
 - ※「友達が困ることはやめよう」「いけないことは、誰がやってもいけない」
 - 「私たちの学校生活は私たちで作る」

(2) 自己肯定感の高揚

- ①集団の中の自分の役割を明確にし、自己有用感を高める。
- ②目的をとらえ、自らの活動を考えることで当事者意識を持たせる。
- ③「先生に言われたからやる」ではなく、「やる意味がある」「やってみたい」「おもしろそう」からスタートする活動

(3) 社会に対する意識の育成

- ①規範意識を高め、安心できる集団を築こうとする態度を養う。
- ②地域社会とのつながりを意識させ、社会の一員であることを自覚させる。

<健やかな心と体を育むために>

- (1) 仲間と取り組む経験を通し、共働の価値を認識させる。(学校行事、部活動)
- (2) 心身の状況に関心を持ち、自己管理意識を高める。(保健指導、健康教育)
- (3) 体力、精神力の向上に努め、健康的な生活を送る態度を養う。(体育的行事)
- (4) 「自分の身は自分で守る」意識を高め、術を習得する。(避難訓練、安全教育)
- (5) 感動体験を通して豊かな心の醸成を図る。(道徳教育、読書活動、芸術鑑賞、講演会)

<教育機能を十分に生かすために>

- (1) PDCAによる評価に基づき、教育活動運営の最適化を図る。
- (2) 手段の目的化を排除し、教育活動の目的に合った実施方法を改善、工夫する。
- (3) 課題への組織対応を基本とし、教師個人の負担軽減とスキルアップをめざす。
- (4) コミュニケーションを活発にし、互いの業務に関心を持ち、効率化・平準化に向けた合意形成を図る。